

輝

現場の女性たち

☆160☆

注射針を主力とする医療用を中心に、ステンレスパイプを製造販売する会社の2代目社長。就任5年目となっ

ば事業を継ぐことが現実になるため、「マネジメントを学びたい」と家族を説得。大学に

編入し経営を学んだ。帰国後に家業に入っ

た。経理などに携わる中で、学んできたことと現場に雲泥の差があることを実感。壊れか

けることを実感。壊れか決めた。後継者になる覚悟を

付いた。「まずは」と本と違い、米国の大学は即戦力を養う。そこで学べたことは、経営者となって大いに役立つ。2014年、父から社長の座を譲り受け、会社を発展させなければならぬ」という大義名分から組織

高品質の注射針製造

一つを持ち前のポジティブさで乗り越える。館林市出身。父が始めた会社を継ぐ気持ちはなく、短大の英文科を卒業後、貿易商社に就職した。だが、得意だったはずの英語はビジネスで通用しなかつた。

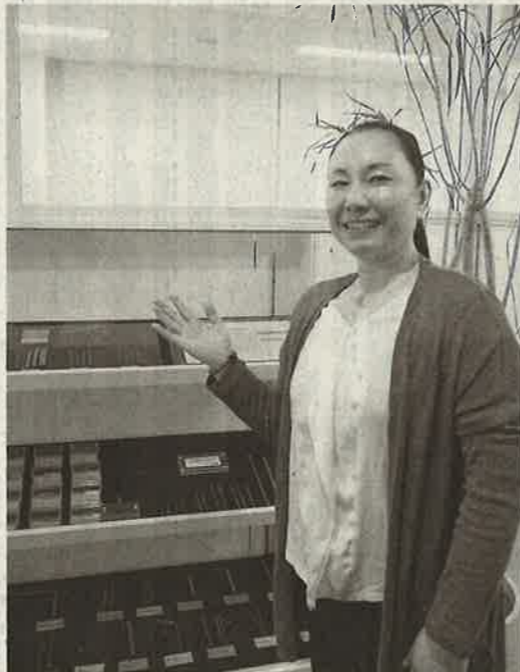
けの機械で良品を製造する現実を目の当たりにし、現場の努力に支

えられていたことに価値観も変わった。日

2014年、父から社長の座を譲り受け、会社を発展させなければならぬ」という大義名分から組織

づくりに動いた。職人気質の父とは正反対で、論理的に物事を進める性格。父の代から働く社員の中には反発を抱く人もいて、2年で社員の半分近くが辞めた。

「誰かが誰かを治しなさい、若い人材を確保したい」という強い思いから、医療機器は開発される。より難しい規格品の製造に向け、働きやすい環境を整えることが使命と考える。



「組織の構築には子どもを育てるように全力を尽くしたい」と語る手島さん

手島精管 手島 由紀子さん(46)

23歳の時、米国・ボストンに語学留学した。1年後、帰国すれ

自ら採用面接に立ち会い、若い人材を確保した。当時入社した新人の中には、今では部長に昇格して活躍する人もいる。40代だった社員は35歳に若返った。製品に関しては現場に任せている。高品質の注射針は海外でも評判が良く、売上比率の2割は欧州やアジア、南米などが占める。

データ 1970年創業。本社は館林市下早川田町。89年に韓国に現地法人、2009年には米国にマーケティング部門を開設した。17年、地域経済を引っ張るような事業展開を期待し、経済産業省が選定する「地域未来牽引企業」に選ばれた。